

ソトコト 9

September 2010
No.135
800YEN

境界大陸

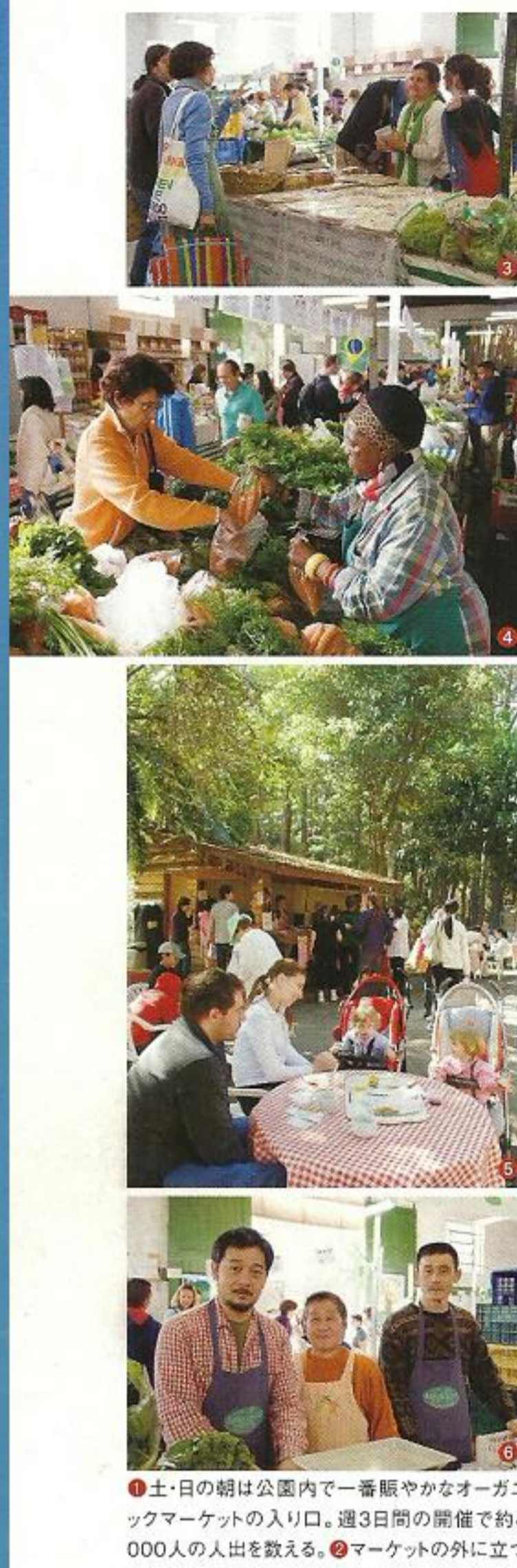
ブラジル入門

ブラジル直輸入。
グリーンな
プレゼント大放出!

Brazil
The Biodiversity Wonderland



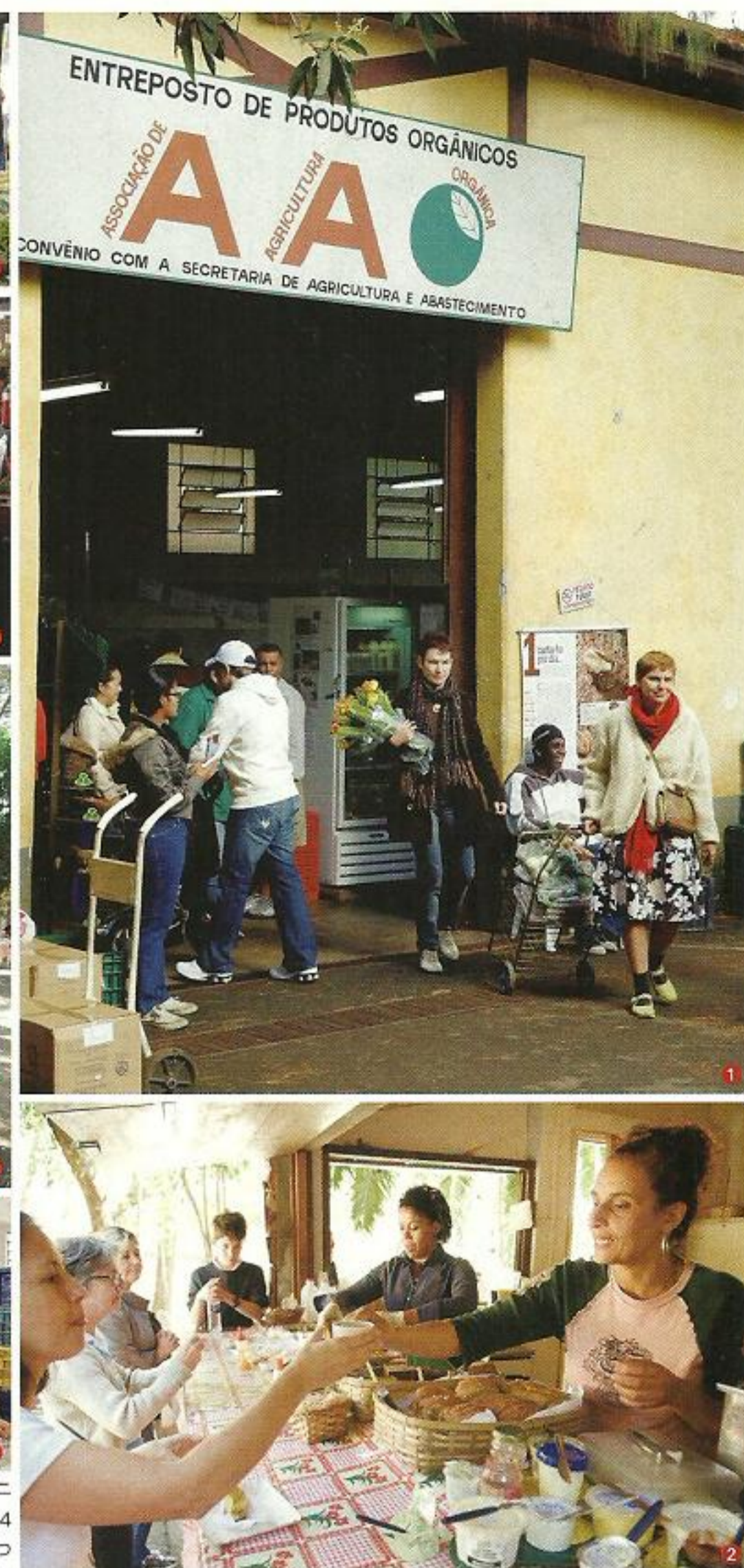
ゴミ、捨てなよ!



●土・日の朝は公園内で一番賑やかなオーガニックマーケットの入り口。連3日間の開催で約4000人の出入を数える。●マーケットの外に立つスタンドでは、オーガニック食材を使ったコーヒー、パン、ケーキが楽しめる。●生産者自らが販売するので安心して買物が楽しめる。●産地直送の野菜が並ぶ。市場に足を運ぶ市民の食卓事情が垣間見られる。●散歩と買い物も一度に楽しめる公園内の市場では子連れのファミリーも多い。●家族経営で新鮮野菜を届ける飯塚農園の皆さん。左から清輝さん、母・光子さん、父・パウロさん。青果生産を行なう日系人は多い。

ECOLOGY AND TRAVEL
AAOのオーガニック市
Feira Orgânica da AAO
サンパウロ州農務局が管理する市民に開かれたアグアブランカ公園で毎週火・土・日曜の朝7時から正午まで行われる。青果以外にもハチミツ、パン、卵など無添加の自然食品も充実している。市場や街の各地区で行われる路上のマーケットに比べて高所得の客が多いのもこの市場の特徴だ。
tel.11-3875-2625
http://www.aao.org.br/

061 SOTOKOTO September 2010



「お客さんが増えて市場はすっかり手狭になりました」とAAO会計担当のモイゼス・サンタナさんは語る。5、6年前に2000人ほどだった集客が今では倍になっている実感があるという。市場は来年20周年を迎えるにあたり、改装を予定している。共通のレジを設置する案や市場をオーガニック文化センターに格上げし、活動範囲を広げる案などを討議中だという。パウロスターノ(サンパウロ市民)に健康生活を推奨する台所はますます盛況だ。

近隣諸国からもモデルとされるオーガニック市は、今朝も大盛況。

日本人移民の貢献が市民を健康に。
3代にわたって約90年農業を営んできた日系の飯塚農園は、1993年か

える約7ヘクタールの畑で大根、ネギ、レタスなど約20品目を栽培し、前日に収穫した新鮮な野菜を販売している。「農業の影響で父が目を悪くして以来、有機農法に変えました。今から30年ほど前のことで、オーガニックという言葉もなかった時代でした」と語る飯塚清輝さんは、農園の後を継ぐべく5年前か

「昔はひとりですべて売っていただけ。今は夫と清輝の3人でないと手が足りません。オーガニックについてよく知っているお客さんが増えていきますね」。飯塚さん一家のほかはこの朝市に出店する日系農家は、全42家族中9家族

20周年を迎えるマーケット。

「お客さんが増えて市場はすっかり手狭になりました」とAAO会計担当のモイゼス・サンタナさんは語る。5、6年前に2000人ほどだった集客が今では倍になっている実感があるという。市場は来年20周年を迎えるにあたり、改装を予定している。共通のレジを設置する案や市場をオーガニック文化センターに格上げし、活動範囲を広げる案などを討議中だという。パウロスターノ(サンパウロ市民)に健康生活を推奨する台所はますます盛況だ。

BRAZIL
THE BIODIVERSITY WONDERLAND

国の大きさや、人の懐の深さなど、スケールの大きさがブラジルの魅力だが、肥満率が高いのはただだけではない。ブラジル保健省の1昨年報告によると肥満は成人の13%を占め、体重過多の肥満は手前は43%を数える。健康的な食生活が必要とされるなか、オーガニック食品への関心は高まっている。サンパウロ市のアグアブランカ公園で毎週火・土・日曜に開かれるオーガニック朝市に出かけてみた。



マーケットで販売される野菜やくだものはすべて、IBDやエコソート・ブラジルなど国内のオーガニック認定を受けた商品だ。大根やごぼう、ほうれん草など日系農家が作る「和」の野菜も多い。

健康志向のパウリスターノたちの台所。 サンパウロの オーガニックマーケット。

南米きってのグルメな街サンパウロは、野菜やくだもの宝庫。美味しいだけでは満足しない健康志向の市民が集まるオーガニック市では、大地の恵みをしっかり吸収した有機野菜や自然商品に出会える。ブラジルで最もオーガニック人気が高い街の台所を訪れた。

